

(別紙)

# 令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 函館市

## 【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン ハコダテリョクフウカイ
法人名	社会福祉法人 函館緑風会
フリガナ	キホウカオカガクエン
事業所名	希望ヶ丘学園
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、退職は除く)】	
27.9人	

## (1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別:  移乗介護  排泄支援  入浴支援  
 移動支援  見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) PARAMOUNT BED 眠りSCAN(5台)

## (2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

### ① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	1人	120件	1,440件	5分	120人時間	120時間
	2 排泄介助・支援	1人	120件	1,440件	5分	120人時間	120時間
	3 生活自立支援(※1)	1人	300件	3,600件	5分	300人時間	300時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	1人	300件	3,600件	1分	60人時間	60時間
	5 その他の直接介護	0人	0件	0件	0分	0人時間	0時間
間接業務	6 巡回・移動	1人	450件	5,400件	5分	450人時間	450時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	1人	150件	1,800件	5分	150人時間	150時間
	8 見守り機器の使用・確認	1人	120件	1,440件	7分	168人時間	168時間
	9 その他の間接業務	0人	0件	0件	0分	0人時間	0時間
			1,560件	18,720件	33分	1,368人時間	1,368時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

### <※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

睡眠を確認する機器の為、日中の算出はしていない。夜間の使用時のみの算出。1. 夜勤職員1名で利用者4回×30日。2. トイレ移動の為1と同様計算。3. 使用利用者5名入眠起床の支援×30日。4. 夜間目を覚ました状況の見守り×1日10回×30日 6.巡回×5人×3回×30日 7. 記録が印刷で可能の為、時間短縮となった。5名×30日 8. 離床センサーを2つ使用

### <※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

夜勤帯での算出(眠りSCAN使用予定利用者のみ) 1. 夜間のトイレの行き来の支援時間 2. トイレ誘導又は支援の平均介助時間 3. 起床と就寝の支援(その際のコミュニケーション含む) 4. 昼夜逆転利用者の行動確認対応 6. 昼夜逆転利用者の行動確認対応・生存確認・所在確認・睡眠確認 7. 睡眠・離床等の確認・データ取り(手書き) 8. 離床センサー×3台(ベッド上1台・廊下2台・その他トイレに簡易型ナースコールを設置)の使用時間

### ② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	1人	120件	1,440件	5分	120人時間	120時間
	2 排泄介助・支援	1人	120件	1,440件	5分	120人時間	120時間
	3 生活自立支援(※1)	1人	300件	3,600件	5分	300人時間	300時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	1人	300件	3,600件	1分	60人時間	60時間
	5 その他の直接介護	0人	0件	0件	0分	0人時間	0時間

間接業務	6 巡回・移動	1人	450件	5,400件	1分	90人時間	90時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	1人	150件	1,800件	1分	30人時間	30時間
	8 見守り機器の使用・確認	1人	5件	60件	1分	1人時間	1時間
	9 その他の間接業務	0人	0件	0件	0分	0人時間	0時間
			1,445件	17,340件	19分	721人時間	721時間

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

睡眠を確認する機器の為、日中の算出はしていない。夜間の使用時のみの算出。1. 夜勤職員1名で利用者4回×30日。2. トイレ移動の為1と同様計算。3. 使用利用者5名入眠起床の支援×30日。4. 夜間目を覚ました状況の見守り×1日10回×30日 6.巡回×5人×3回×30日 7. 記録が印刷で可能の為、時間短縮となった。5名×30日8. 眠りSCANを使用し、事務室内モニターで確認のみ。

<※4>D. 1件当たり発生件数の算出方法

夜勤帯での算出 眠りSCAN導入する事で、記録記入、訪室時間の減少及び、他の見守り機器の使用減 (6・7・8)

年間業務時間数想定削減率(%)

47.3%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

見守りの回数が減少した。機械で睡眠データが取れるので、睡眠の記録を取らなくても良い。③発作や離床などの様子を確認する為に、夜間何度も訪室していたが、事務室内で睡眠・呼吸数・心拍数を確認できる為、訪室の回数が著しく減少した。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

支援員の労働の軽減(特に巡回・見守り・記録)につながった。

(5)今後の課題

施設内で機器を使用する為のハード面の設備の完備。使用する利用者が増加した場合機器を増設しなければならない。それに伴いネット(Wi-Fi)環境の整備が必要となる。

(6)気づき等について

支援するにあたり、人ではなく機械に頼る事も必要と感じた。機械に頼る事で、他の業務に時間が当てる事ができている。訪室しなくて生存確認が出来ている安心感がある。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の縮減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の縮減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下を回答すること。

縮減額(円/月)	
職員の質上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。